訪問診療・往診専門
医療法人 かさまつ在宅クリニック

かさまつ通信
No.52
令和８年11月

2026年 ④

＜はじめに＞

当クリニックも１０月１日に１４周年を迎えることができました。また１年、「かさまつ通信」をよろしくお願いします。

令和８年熊本地震から３か月が経過しましたが、まだ１０００人以上の方々が避難所生活を送られています。避難所生活が長期になると、筋力の低下、血栓の発生、慢性疾患や認知症の悪化、寒冷期における感染症罹患など心配事がたくさん増えてきます。遠くからですが、引き続き見守っていきたいと思います。

先日、「とくしま発・在宅ケア学」（徳島大学大学院医歯薬学研究部看護リカレント教育センター主催）に参加してきました。徳島県内外から約 100 名の看護職（主に在宅分野）が集まり、会場は熱気に包まれていました。私は、実技（気管カニューレの交換、胃瘻カテーテルの交換、超音波検査実習、聴診実習など）の時間を担当しましたが、各ブースで参加者からの積極的な質問がありました。『臨床現場は疑問だらけです。自分ができること、できないことをしっかり見極め、できないことは迷わず他者に委ねることが大切です』とお話しさせていただきました。

本のご紹介



会話の0．2秒を言語学する　水野太貴著（新潮社）

患者さんへの言葉かけは、わかりやすく、優しい言葉をチョイスする必要があると思いますが、何年も臨床現場を経験しても難しいものです。普段の言葉のキャッチボールでも難しい場面もありますよね。AI 時代だからこそ、人が発する魂のこもった言葉かけが必要だと感じています。最近は特に自分自身、言葉を大切にしたいと強く思っています（難しいのですが）。そんな思いのときに出会ったのが、今回の本です。

紹介する本は言語学の入門書といってもいいと思いますが、言語学専門家による先行研究に著者の考えを交えながら、わかりやすく紹介しています。著者は、「ゆる言語学ラジオ」のスピーカーとしても活躍していますが、その YouTube 動画が文章化された感じで、専門的な内容もありますが、わかりやすく読みやすい１冊だと思います。ときには“言語”について考える時間、いかがでしょうか。

＜最後に＞

来年の「かさまつ通信」は、また新しい企画を考えていきたいと思っています。いつも最後まで読んでいただきありがとうございます。来年もどうぞよろしくお願いいたします。（院長　笠松　哲司）

〒770-8054　徳島市山城西４丁目 13-3　　TEL：088-679-6393
HP：http://www.kasamatsu-zaitaku.com　　FAX：088-679-6394

訪問診療・往診専門
医療法人 かさまつ在宅クリニック

かさまつ通信
No.52
令和８年11月

11月に入り、急に季節が進んだように思います。暦の上では本日11月7日は立冬。北海道では10㎝も雪が積もり、「明日は大雪に注意」なんて予想も出ている中、日本の南の海上では台風32号が発生なんてニュースも・・・。暑いのか？寒いのか？よくわからない日々が続いて、突然冬になったりするのかしら？と着る服にも困る今日この頃。インフルエンザが例年より随分早くに流行ったかと思えば、夏風邪のひとつであるヘルパンギーナもまだ多くみられるようです。月並みですが、手洗い・うがいでしっかり感染症対策をしましょうね。

さて、おかげさまで当クリニックは10月1日に開院14周年を迎えることができました。今号で2026年の通信も最終です。少し早いですが、今年を振り返るといろいろな出会いがあった年でした。9月には北九州市小倉で開催された日本小児診療多職種学会に参加したついでに、開業間もない頃に訪問診療を担当していた患者さんに会ってきました。当時1歳半だったお子さんも、もう中学生。私にとっては、初めて在宅で担当した、気管切開と胃瘻のあるお子さんでした。転居されてから10年以上が経ち、ご家族それぞれの歩みにはご苦労も多かったと思いますが、あの頃と変わらず笑顔でたくさんお話できて、大変感慨深い再会でした。10月は、ケニアの障害児支援事業「シロアムの園」で活動されている公文和子先生とお会いすることができました。医療、経済、文化、宗教、民族、死生観、その他にも様々な環境が日本とは異なる中で、小児科医としてケニアの障害を持つこどもたちとそのご家族に向き合っている公文先生は、とっても気さくでチャーミングな方でした。お話をして大ファンになると同時に、今自分の携わっている医療についても深く考えさせられる機会になりました。

15年目に突入し、当然ですがクリニックを取り巻く環境は15年前とはずいぶん変化しました。私たちも凝り固まった頭と体を緩めて、変化を受け入れていきたいと思います。積極的にいろんな出会いも探してみたいですね。

（小児科　笠松　由華）



公文先生のご著書です。共感することがたくさんすぎて、胸が熱くなりました。



シロアムの園に通うお子さんのお母さんたちが作った布小物。カラフルなアフリカ布がかわいくて、公文先生の講演会の後ひとつ購入しました。

〒770-8054　徳島市山城西４丁目13-3　　TEL：088-679-6393
HP：http://www.kasamatsu-zaitaku.com　　FAX：088-679-6394

訪問診療・往診専門
医療法人 かさまつ在宅クリニック

かさまつ通信
No.52
令和８年11月

毎年 10 月下旬に地元の神社では秋祭りが開催されます。１日目の夜には『稚児三番叟（ちごさんばんそう）』と呼ばれる子供たちによる舞が舞台上で奉納されるのですが、地域に伝わる県の無形文化財として指定されており、その昔、父も何度か踊ったそうです。

今年は天気が心配でしたが、その後の打ち上げ花火までなんとか無事にもってくれました。まだかまだかと花火を待っている時間は年齢を重ねてもワクワクするものです。また来年も家族で見上げることができたら…と思いました。

庭のアメジストセージも負けじとワサワサと咲いてくれています。（薬剤師　宮田）







今夏の登山
三嶺(みうね)標高 1894m

先日、がんカフェとくしま１０周年特別記念講演会に参加しました。がん研究有明病院腫瘍精神科部長清水研先生の「がん患者のこころをささえる言葉」というテーマのご講演を拝聴しました。改めて、「言葉」は相手の感情に深く影響を与える力を持つということを再認識しました。

日常の何気ない対話が、相手にとってはとても意味のある言葉として心に残ることもあります。人は、相手が「わかろうとしてくれている」と感じた時に、安心できたり、こころがほっとできるのではないでしょうか。看護師として、人として「一生懸命に聞く姿勢を持ち続ける」ことを大切にしたいと思います。（看護師　成瀬）

“食欲の秋”ということで、コーヒーのお供にお芋や栗のおやつを食べています。食べることが好きですが、健康的な食生活ではないので、改善が必要だと感じています。でも甘いものは、やめられそうにありません。

いろんな食材をバランス良く食べることが理想ですが、何せ物価高なので、値段とにらめっこしながら栄養面も気にしていきたいと思います。（事務　西岡）



〒770-8054　徳島市山城西４丁目 13-3　　TEL：088-679-6393
HP：http://www.kasamatsu-zaitaku.com　　FAX：088-679-6394